

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491-2番地2		
自己評価作成日	令和3年9月3日	評価結果市町村受理日	令和3年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊か土地柄を生かした共同生活を主体に、四季折々の楽しみを生活リハビリに生かし(野菜作り、畑仕事、園芸、山菜処理等) 個々の楽しみ、生きがいに、反映できるよう支援します。地域行事や、地域の方々との、触れ合いの場を持てるよう努めます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は三件の事業所を運営しており、事務局で通信や事務処理等が円滑に行われている。コロナ禍で地域交流は中止となっているが、開設時からの職員や地元の職員が多く、地域の情報を把握することが出来ている。外出制限はあるものの、広い庭に出て季節を感じながら弁当を食べるなど工夫している。職員は、利用者一人ひとりの残存機能を見極め、生活リハビリの充実と継続に力を入れている。職員自身が、親を入れたい、将来、自分も入りたいと思えるグループホーム作りを目標に、支援を実践している。管理者及び職員は強い信頼関係が構築されており、利用者の笑い声と会話の絶えないホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然豊かな環境で楽しく余生を過ごせるようにと理念を共有し入居者様、ご家族様、職員三者が力を合わせて、居心地良いホーム作りを目指している。	全職員に理念と運営方針について周知を図り、事業所内の目に付く場所にも掲げている。職員ミーティングで、正しく実践ができているかを確認し、日々、振り返りながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、近隣のかたの出席をお願いしている。自主防災組織にも加入している。	回覧板や地元の職員を通じて、地域行事の情報を得ながら、地域と交流をしている。野菜の差し入れがあったり、住民対象の健康相談やエステ体験等を開催するなど、開放的な事業所であったが、感染予防対策の為、現在は自粛している。コロナ収束後には、再開の予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とは、日頃より、あいさつや、言葉かけを行い、事務所での行事には、声掛けをして参加して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回の推進会議には、飛騨市本所、河合振興事務所、所轄の警察官、地域住民の方々と意見交換したり、年1回家族会のアンケートの集計を基に、意識を高めている。	感染拡大が広がっていた時は書面会議とし、関係者や家族に文書を送付して意見を聞いていた。今年の8月には運営推進会議を開催することが出来ている。会議には地元駐在員の参加があり、認知症家族の事件事例の報告や、地域の高齢世帯の現状を知ることができている。また、家族会のアンケート結果を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、飛騨市本所、河合振興事務所の担当の方とは、地域密着を視野に入れて、連絡し、相談にのって頂いている。	行政からは、新型コロナ最新情報や介護保険改正点等がメールで配信され、必要な事項を見落とさないようにしている。感染対策の定期無線放送や高齢者健康診断があり、いきいき券などは巡回バス代や買い物等に充てるなど、行政サービスを有効に活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部評価、内部研修、推進会議等を含めて、職員間の共通理解とし、身体拘束や、虐待をしないケアを実践している。	身体拘束ゼロの取り組みを実践している。委員会は定期的に開催し、職員研修や具体的な場面を想定した意見交換の記録、資料をノートにまとめている。職員閲覧確認の欄もあり、拘束をしないケアの実践について意識を高めている。	身体拘束等の適正化検討委員会を開催していることはノートで確認できるが、定期的な委員会開催が義務化されていることを踏まえ、議事録の整備にも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等、適正委員会、内部研修を行い、職員の意識を高め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日本国憲法第13条で「すべての国民は、個人として尊重される。」と謳ってある事を理解し、認知症の人が、自分の意向を上手く伝える事が出来なくても、本人の表情や態度から推測し、本人の代弁が出来る様、努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、書面に沿い、利用料金、消耗品の支払い等、金銭に関する事項については、特に説明し、施設での事故、病気等の説明を行い、時によっては、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を兼ねた家族会の際にアンケートを配布し、その結果を、運営に反映させている。又、ご家族様とは電話連絡を、事あるごとにさせて頂いている。	毎月、家族に同法人の3事業所共通の通信と共に、利用者の暮らしが分かる個別の便りを写真付きで送付している。家族会開催時に、利用者と同じ食事の試食会を行ったり、意向や要望、緊急時に関する項目等、アンケートを実施し、結果を運営に反映させている。また、コロナ禍ではあるが、庭で短時間の面会も実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経理担当者、管理者は日々のミーティング、月例ミーティング等を行い、職員の意見を聞き、今後に反映させるよう努めている。	地域の人を多く雇用しており、勤続年数の長い職員が多い。管理者も共に現場のシフトに入り、提案や意見は、その都度聴いている。風通しの良い職場環境の中で、職員も自由に発言ができ、それぞれが得意な事をケアに活かしながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望などは、勤務形態の都合の許す限り副えるよう、努めている。勤務についても職員同士の連携で行える環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍、ここ1年余り、行政主体の研修等も無く、施設内での勉強会でとどまっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催のケマネ会議に参加し、意見交換、勉強会等を参考にサービス向上させるよう、取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の、事前調査を基に、御本人、ご家族様の意見を聞き取り、共に支援の方向性を考えながら、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、初めての事づくしで不安なご家族様とは、共通の話題等で信頼関係を築きつつ、ご家族様の気持ちを受け止めたり、声に耳を傾けたり、支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様やご家族様の意向を職員間で、情報を共有し、適切な支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人には役割を持って頂き、生きがいを見出し出させていただく様、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子やを電話や写真入りの手紙でお知らせしたり、ご家族様より、直接電話で話しをしてもらい、安心して生活出来るよう、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会や電話等は、積極的に支援している。	友人や近隣住民と付き合いのあった利用者が多く、訪問が途切れていない。バス利用の来訪者には、帰りのバス停まで送ったり、来訪者家族の送迎協力もあり、馴染みの関係が継続している。今は、面会を制限しているが、地元在住の職員が、馴染みの人や場所の情報を伝え、利用者の気持ちをつないでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の個々の状況に応じて、ホールでの生活様式への配慮等、職員間のミーティングを随時行い、支え合えるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が、終了しても、ご家族様の相談にのれるよう、支援努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの抱える課題の具体的な内容を明らかにし、御本人の持っているの能力を知り、ご家族様の介護力を知り、生活全般を把握するように努めている。	入浴や散歩時、職員と利用者が居室で1対1になった時などに、本人の思いや意向を訊ねている。新たな情報は職員間で共有し、その人の思いや残存能力を引き出せるよう努めている。把握が困難な場合は、別の職員が対応してみるなど、工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の、事前調査を基に、御本人、御家族様の意見を聞き取り、共に支援の方向性を考えながら、信頼関係を築けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御家族様や、在宅のケアマネさんに情報を頂き、職員が情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、ご家族様にそれぞれの思いを伺い、介護職員の日々の生活支援を行っている情報を出し合って、出来ている事、出来そうな事、困っていること等を合わせて介護計画を作成している。	利用者それぞれが出来ることを見極め、日々の暮らしの中で役割を持てるよう、生活リハビリを基本に介護計画を作成している。業務日誌に利用者の生活リハビリ状況の記録欄もあり、ミーティングでの意見交換の内容や家族の希望等を反映させている。モニタリングも適切に行い、見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を確認して、その時々々の情報を知り、事故を防いだり、健康状態を維持するために生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族様が抱える課題を把握して、何がどの程度必要かを把握し、解決する為に必要な支援を行って行く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年、今年とコロナ禍において、地区の行事には参加出来ず、地産資源(山菜採り、山菜処理)に関わる作業に参加していただくよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の受診の際には、担当医様への連絡、及び直接同行して情報を提供している。	利用者は、入居前のかかりつけ医を継続している。協力医の往診がない為、家族に受診同行を依頼している。医療機関と家族、事業所が医療情報を共有し、利用者の健康管理に努めている。市独自のさわやか検診はレントゲン検査もあり、家族の協力を得て受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内には、看護師は常駐していないが、医療は、かかりつけ医の定期受診、各病院の相談室等に問い合わせを行い、意見、指示に対処出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の連携室、相談窓口などに、入院時には入院前の施設での様子を伝え、又退院時の支援についても、相談助言を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、早目にご家族様に連絡を入れ、様子を細目にお伝えしている。その後についても、施設、医療関係と十分相談しながら、方針を共有し、支援すように取り組んでいる。	契約時に、終末期の看取り支援は行っていないことを説明している。家族には、要介護3の時点で特養の入所申し込み申請を勧め、重度化や終末期に不安がないよう方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生等、日中、夜間問わず、職員間の連絡網での抜き打ち訓練を行ったり、緊急搬送等の連絡の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災、火災、水害訓練、救急搬送訓練等、年に数回行い、職員間の連絡網、地域の連絡網も確立し協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実施している。今年度は事業所のみで訓練を実施し、書面で報告している。災害時においては、すぐに参集可能な近隣在住の職員を中心に連絡網を作成し、避難場所も決めている。手作りの防災頭巾や備蓄品の準備もある。防災堰堤工事は完了している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、自尊心を傷つけない様に職員の共通理解を保ち、支援を行っている。	職員は、利用者の言葉や表情、仕草等から推測し、本人の気持ちを汲みながら支援することを共通認識としている。利用者一人ひとりが暮らしの中で役割を持って暮らせるよう支援し、家族アンケート等では、個人情報を守り、適切な対応をするよう努めている。	職員や来訪者が利用するトイレ内に、利用者の排泄用品が見える形で保管されている。利用者の尊厳とプライバシーに配慮した管理方法の工夫に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	モニタリング、サービス会議を行い、御本人の思いや希望、内々の様子を職員間の共通認識とし、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や、施設の意見を全面に出したり、都合を優先するのではなく、一人ひとりの思いに寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、小物等お気に入りには常に居室に設置している。「おしゃれ」に対して興味を持ち続けていただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材や地産地消を推奨し、食材の下処理等、職員と一緒にやっている。	栄養バランスを考慮した食材の配達サービスを利用し、職員が利用者好みに調理している。さらに、菜園で収穫した野菜や、近隣住民、職員からの差し入れ野菜を活用して提供している。品数も多く全員完食である。今はコロナ禍で黙食としているが、利用者は出来る作業を手伝い、職員と一緒に楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足による、体調の変化(脱水症状、便秘)を見逃さない様に努めている。体重の増減、食事量残量等、職員間での共通認識としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際の声掛け、見守りに努め、個々の鉤区内の状態を把握するように努めている。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排便、排尿状態を把握し、声掛け、誘導における、自立、自力排泄に向けて、職員間の共通認識とし、支援を行っている。	個々の排泄パターンに合わせてトイレへ誘導し、自立を支援している。夜間帯はポータブルトイレや適切なパッドを組み合わせで対応している。毎日、排泄用品の使用枚数を記録し、家族に排泄状況と併せて報告している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防としては、食材や飲料、運動、散歩等を積極的に取り入れ工夫をしている。医療行為が必要な場合は、かかりつけ医に受診、相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに好みの湯加減や、個人の好みの洗髪剤等、入浴支援を行い、気持ちよく入浴時間を楽しんで頂けるよう支援している。	事業所は、廃校後に研修宿泊施設であった風呂場をそのまま活用しており、浴室は広く、浴槽も数人が一緒に入ることができる。利用者2人の入浴支援を、職員2人で同時に対応ができる。順番や入浴のこだわりも柔軟に受け入れ、ゆったりと楽しめる支援をしている。冬場は特に、脱衣室の室温にも気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で、身体的に必要な休息や睡眠が取れる様に声掛けし、誘導している。無理強いせず自然のまま、気持ちよく眠りにつけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬状況を、職員間で、確認、認識し誤嚥、飲み残しが無いように努めている。又、個々の健康状態の観察し、病気の早期発見のきずきとしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	其々の能力、性格を重視し、楽しみながら日々送れる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の天候に合わせて、入居者様の体調、希望に沿い、戸外へ出れるように支援している。受診の際の外出支援もご家族様の希望を重視している。	コロナ禍にある為、地域行事や季節の花を楽しむ遠出の外出支援は自粛している。利用者は、天気の良い日は周辺を散歩したり、玄関先のベンチに座り、パラソルの下での外気浴や青空食堂を楽しんでいる。毎月、JA移動販売車の巡回があり、利用者が買い物を楽しめるよう支援を行っている。	

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	飛騨市が発行している、「いきいき券」を利用し、移動販売車にて、各自の買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や御本人様の意見を尊重し、電話の送受信や手紙の投函等、やり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、入居者様に分かり易いように表示を行い、施設内室温は、季節に応じたり、毎日の天気予報を参考に、職員管理にて支援に努めている。	廃校となった小学校を改修し、2007年に開設したホームの玄関口は、小学校の面影を残す靴箱を活用し、段差には、スロープと手すりです安全対策を行っている。台所は旧給食室であり、廊下も広く、全体に解放感がある。職員は、家にある花を持ち寄り、季節感を取り入れながら、冬季は適切な室温管理で居心地よい環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通空間においては、それぞれの身体能力に合わせた席や椅子を用意したり、気の合った方々と会話出来る様席を決め、時には席替えにて、気分転換を図ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には、ご家族様からの、花の定期便を飾る人、ペットの写真を眺める人、其々が落ち着いて生活出来る空間を提供し、支援している。	居室には明るい陽射しが入り、花を飾っている人には水やりを促したり、室内のモップがけの声掛けをするなど、今までと変わらない暮らし方を支援している。各居室には、1日のスケジュール表、カレンダー、建物見取り図で示した避難経路表の掲示もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居年数により、介護度が上がり、いままでの対応では不可能になってきている。その際は、居室の移動や寝具類の交換を行い、安全な生活が送れる様支援している。		